

「平成 23 年度 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会」について（報告）

7月26日、27日の2日間、平成23年度四国地方整備局管内技術・業務研究発表会を高松サポート合同庁舎内会議室で開催しました。

発表会は、四国地方整備局、徳島県、高知県、宿毛市、(独)水資源機構職員の参加のもと一般公開で行われ、一般部門（安全・安心に暮らせる四国づくり、交流・連携による四国づくり、人と自然にやさしい四国づくり、業務改善等への取り組み）、アカウントビリティ部門、イノベーション部門の3部門合計49題で行いました。

開会にあたり、川崎局長から「この技術・業務研究発表会は、日頃培ってきた成果を披露し合い、活発な意見交換を通じて、個人のスキルアップを図るとともに組織の技術力の向上を目指すことを目的としている。論文発表内容を今後の活動に十分活用して、さらなる発展をさせて欲しい。」との挨拶がありました。

その後、アイホールと13階会議室の2会場に分かれて、2日間で延べ約500名の参加のもと発表を行いました。



川崎局長開会挨拶



発表会場（アイホール）の様子



発表会場（13階会議室）の様子

2日目の午後からは、「東日本大震災の教訓と東南海・南海地震への備え」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。

はじめに、上林防災課長より東日本大震災に対する国土交通省・四国地方整備局が行った取組や東日本大震災を受けての教訓、東南海・南海地震に対する防災基本戦略について話題提供が行われました。

次の会場参加型のパネルディスカッションでは、パネリストからのTEC-FORCE・調査団での活動内容や被災地を経験しての感想・教訓等の紹介がありました。



上林防災課長話題提供

その後、会場を交えて「東日本大震災から何を感じ、どう思ったか」について意見交換が行われ、東日本大震災の経験を参加者で共有していきました。

最後に、森河川部長、長谷川道路部長、池田港湾空港部長よりコメントをいただき、コーディネーターの松本防災対策官から「百聞は一見にしかず、百見は一考にしかず、百考は一行にしかず」と経験し、自ら考え、実際に行動することが備えに繋がると締めくくられました。



ラウンド1 迫り来る大震災 わたしたちは何をすべきか

・東日本大震災から何を感じ、どう思ったか

調査報告の段階ではない 四国にどう活かすのか その段階 情報が無い → 情報の重点化 自治体との共同訓練 命 逃げろ どう具体に実現するか	不安をどう和らげるか、急務 家族で議論しておく 情報収集・提供・考える 国、地方公共団体、土木業者 BCP
福島から千葉県まで 液状化の状況、地盤沈下 四国では、香川でも液状化が	3日目、東北局長TV会議 貴重な経験、ノウハウの蓄積→四国に活かして 四国は東北より厳しい
機械班 出発の時から情報が無い いってからも情報が無い 現場は錯綜、手戻り 情報が大事	関東、東北に連絡が取れない 災害伝言ダイヤル 送っても、向こうがどうなっているか不明 家族の状況が不明な状況で業務 不安
自分も現場で起きたときには対応できるか考えさせられた 職場の中で変わった 地震や参集について確認するようになった	全体像がわからない 想定と違う内容 非常時 対応
事務所に到達できるだろうか、個人携帯でどう情報をとるか 車の運行 車、運転手の確保は 弁当は → 災害対応ができるのか 自分、家族、近所、身の回りの安全	



パネルディスカッションの様子

論文発表を受けて、論文審査委員長である石橋企画部長から「東南海・南海地震対策をはじめとする安全・安心に暮らせる四国づくりに関する課題数が多くなっているが、業務改善やイノベーション部門の課題数がやや少ない傾向にある。来年度以降、発表数が増えることを期待している。論文内容については、きめ細やかな様々な検討や対応がなされており、発表についても日頃の業務成果をまとめあげたわかりやすい説明であった。発表者、聴講者ともに今回の発表会を今後の業務に活かしていただきたい。」との講評がありました。



石橋企画部長講評



白石次長閉会挨拶

そして、49 論文の中から 16 論文が優秀論文に選ばれ、白石次長より表彰状が授与されました。なお、優秀論文のうち、5 論文が 10 月 17 日、18 日に開催が予定されている「平成 23 年度国土交通省国土技術研究会」に推薦されました。

優秀論文 16 論文と、平成 23 年度国土交通省国土技術研究会に推薦されることになった 5 論文は次表のとおりです。

最後に、白石次長より「本研究発表会は、資料のまとめ方やパワーポイントの作成の仕方等レベルの高いものであった。近年、社会資本整備を巡る課題は多様化しており、説明責任、アカウンタビリティが重要となっている。今回の発表を活用して、相手に伝える力を日々磨いていただきたい。」との閉会挨拶で 2 日間の研究発表会を締めくくりました。

発表者の皆様、業務多忙の折、お疲れ様でした。

『優秀論文、国土交通省国土技術研究会への推薦一覧』

発表順	部門名	発表課題名	所属	氏名	備考
1	一般部門	現場における撮影テクニックについて	四国地方整備局 河川部河川管理課 維持修繕係	ぼんどう りょうた 坂東 良太	
2	一般部門	長安ロダムの改造計画について	那賀川河川事務所 開発工務課 開発工務係	しのかの りょうじ 四宮 隆司	
3	一般部門	宿毛市の津波防災対策の見直しについて	宿毛市 総務課 危機管理係	どい まさひと 土居 祐仁	
4	一般部門	国道33号の災害による2度にわたる全面通行止めに対する応急復旧について	土佐国道事務所 佐川国道維持出張所 技術係	ちようたく ひではる 長楽 英晴	●
5	一般部門	松山港における爆弾の水中爆破処理について	松山港湾・空港整備事務所 保全課	せんぼ ゆうすけ 泉保 佑介	
6	一般部門	公共事業のスピードアップのための用地取得の迅速化の考察と対応 ～保存登記がなされていない所有者不明の土地について不在者財産管理人制度の活用等による 用地取得～	高知河川国道事務所 用地課 用地第一係	そごう こと 十河 誠	
7	一般部門	トンネル維持管理費の節減対策検討について(中間報告)	四国技術事務所 施工調査課 技術活用係	かかたに める 懸谷 実	
8	一般部門	鹿野川ダム湖水質改善の取り組みについて	山鳥坂ダム工事事務所 事業計画課 計画係	にしかみ たつや 國友 達也	
9	一般部門	都市の制約条件を踏まえた自転車交通ネットワーク形成社会実験	松山河川国道事務所 計画課 地域調査係	たなか じろう 田中 二郎	
10	一般部門	道路工事で中央構造線の活断層を保全 ～国道32号猪ノ鼻道路 保存検討委員会で決定～	徳島河川国道事務所 工務第二課 工務第一係	たなか ひたる 田中 亘	
11	一般部門	瀬切れが及ぼす河川環境への影響(中間報告)	松山河川国道事務所 調査第一課 河川調査係	いしむら まさし 吉村 匡	●
12	一般部門	銅山川における河川環境改善の取り組みについて(中間報告)	吉野川ダム統合管理事務所 管理課 管理係	あかざき まさゆき 赤坂 政幸	
13	一般部門	分画フェンスによる淡水赤潮対策について	(独)水資源機構 池田総合管理所 新宮ダム管理所	さかい た ひかる 坂井田 輝	
14	イノベーション部門	省力型木製残存型枠工法の開発と施工について	四国山地砂防事務所 重信川砂防出張所 技術係	むかいやま まさみ 向山 正純	●
15	イノベーション部門	撫養港海岸保全施設整備事業における砂圧入式静的締固め工法の適用	小松島港湾・空港整備事務所 沿岸防災対策室	まなべ たかとし 真鍋 尊年	●
16	アカウントビリティ部門	高知西南部地域活性化懇談会	中筋川総合開発工事事務所 調査・品質確保課 調査係	しいなが きや 森長 沙耶	●

※順不同

●印は国土交通省国土技術研究会への推薦

『優秀論文受賞者』

